

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
301	国際政治経済学演習 (秋葉弘哉)	秋学期 (週2回)	3年以上：4単位	秋葉 弘哉 政政・経演・国演

副題
Subtitle 開放マクロ経済学 (国際金融論)

授業概要
Course Description 現代の経済は、国際化とともにますますその相互依存関係を深めている。その依存関係は、モノ、ヒト、カネのいずれの側面でも今後さらに深まるものと考えられる。本演習では、特にカネを通じた国際的な相互依存関係を、一昔前の「国際金融論」、現代風にいえば「開放マクロ経済学」をつうじて、主として理論的に解明する。しかし同時に、理論的な帰結は実証的な側面から検証する必要がある、時間の許す限り、また受講生の基礎的な統計学の知識と計量分析能力に応じて、計量経済学からのアプローチにも注目する。

授業の到達目標
Objectives 開放マクロ経済学の習得。

授業計画
Course Schedule 第1回：通年計画及び春期計画の説明等
第2回 - 第4回：テキスト第2章
第5回 - 第7回：テキスト第3章
第8回 - 第10回：テキスト第4章
第11回 - 第13回：テキスト第5章
第14回 - 第15回：テキスト第6章
第16回：秋期計画の確認等
第17回 - 第19回：テキスト第7章
第20回 - 第22回：テキスト第8章
第23回 - 第25回：テキスト第9章
第26回 - 第28回：テキスト第10章
第29回 - 第30回：テキスト第11章

教科書
Textbook(s) バード「国際マクロ経済学」文真堂、2001年

参考文献
Reference Book(s) 秋葉弘哉「国際経済学」ミネルヴァ書房、2010年

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	開放マクロ経済学の理解度。
平常点評価 Class Participation	50 %	出席・報告・参加態度。
その他 Other	%	

備考
Note 前提科目：ミクロ経済学入門・マクロ経済学入門 (国際政経学科生のみ)
* 統計学入門
* 統計学入門については、履修済みであることが望ましい。
関連科目：金融論、国際貿易理論、国際金融理論、統計学、計量分析、計量経済学 (、)

関連URL
URLs for References

なし。

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
302	国際政治経済学演習（久保慶一）	通年	3年以上：4単位	久保 慶一 政政・経演・国演

副 題
Subtitle

現代世界の民族紛争と平和構築

授業概要
Course Description

本演習では、現代世界を揺るがしつづける民族紛争と紛争後平和構築について、理論と事例の双方を学ぶ。民族紛争はなぜ起こるのか。民族間の対立はどのように解決すればよいのか。多民族が平和的に共存するにはどうすればよいのか。紛争後の平和構築はどのように進めていけばよいのか。そこで国連などの国際機関はどのような役割を果たすべきなのか。本演習ではまずこれらの問題を考えるための理論的な文献を読み進めながら、世界各地の事例についても少しずつ学んでいきたい。演習では事前に各回のディスカッションのテーマを設定し、購読した文献を踏まえたディスカッションを行うことで、多面的に分析・評価する力や批判的思考力を養いたい。こうした購読や議論を通じて各自が関心を寄せる研究テーマを選択し、では、資料の収集と分析にもとづいた研究発表を行い、議論を通じて理論と事例双方の理解を深めていく。分析対象は先進国、旧ソ連・東欧、アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどいずれの地域・国でもよいが、外国の政治・社会・歴史・文化に強い関心を持ち、積極的に議論に参加する人を希望する。

授業の
到達目標
Objectives

本演習は、民族紛争と紛争後平和構築に関する基礎的な諸理論についての理解を得ることを目標とする。また、あわせて、世界各地の紛争や平和構築の具体的事例についても学んでいくことを目指したい。こうした理論と事例の理解をもとに、参加者各自が研究テーマを設定して資料収集や文献購読を進め、翌年度末の卒業論文提出に向けた基礎的な作業に着手することが演習初年度（ ）の目標である。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：春学期イントロダクション
- 第2回 - 第3回：文献購読1 - 民族アイデンティティの起源（アンダーソン『想像の共同体』）
- 第4回 - 第5回：文献購読2 - 現代の民族紛争の特徴（カルドー『新戦争論』）
- 第6回 - 第7回：文献購読3 - 現代の紛争と経済（コリアー『最底辺の10億人』）
- 第8回 - 第9回：文献購読4 - テロの政治・経済的諸要因（クルーガー『人はなぜテロリストになるのか』）
- 第10回：論文購読1 - 人道的介入（千知岩「人道的介入と保護する責任論」ほか）
- 第11回：論文購読2 - 紛争後平和構築と国連（上杉「国連統合ミッションの人道的ジレンマ」ほか）
- 第12回：論文購読3 - 平和構築におけるDDR（瀬谷「平和構築におけるDDRの成果、限界と今後の役割」ほか）
- 第13回：論文購読4 - 平和構築における移行期正義（望月「移行期正義における国際的な刑事裁判所の役割」ほか）
- 第14回：論文購読5 - 平和構築、人間の安全保障と教育（水野「平和構築のための教育協力」ほか）
- 第15回：理解度の確認
- 第16回：秋学期イントロダクション
- 第17回 - 第20回：論文購読（ゼミ生の研究テーマをもとに購読する論文を選択）
- 第21回 - 第29回：各自の研究成果の中間発表
- 第30回：理解度の確認

教科書
Textbook(s)

必要に応じ、指示する。

参考文献
Reference Book(s)

必要に応じ、指示する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	40 %	秋学期末提出のタームペーパーをもとに評価します。
平常点評価 Class Participation	60 %	出席、プレゼンテーション、議論への貢献度、その他の要素を総合的に評価します。
その他 Other	%	

備考
Note

関連URL
URLs for References

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
303	国際政治経済学演習 (小西秀樹)	通年	3年以上：4単位	小西 秀樹 政政・経演・国演

副題
Subtitle

公共選択の経済分析

授業概要
Course Description

政治学と経済学の学際領域としての政治経済学は近年、ゲーム理論を用いた精緻なモデル分析とパネルデータを利用した厳密な実証分析の導入によって大きく様変わりしつつある。本演習では、政治的アクター（政治家、有権者、利益集団、官僚など）による政策選択と市場経済との相互依存関係を考慮しながら、政策はどのように決まるのか、なぜその政策は採用されたのか、政策決定に関わる制度をどのように構築するのが望ましいのか、といった論点について理論と実証の両面から考察し、ゼミ生の間で議論することを目的とする。

授業の到達目標
Objectives

経済理論やゲーム理論にもとづいて論理的に議論を展開できるようになること、計量経済学の基礎を身につけ、データを分析するコンピュータ技術を身につけること。

授業計画
Course Schedule

詳細は小西研究室のホームページを参照のこと
演習：第1回 - 第30回 ゲーム理論と計量経済学の基礎を学習
演習：第1回 - 第15回 政治経済学の文献を輪読
第16回 - 第30回 研究成果の発表

教科書
Textbook(s)

Gibbons, R., GAME THEORY FOR APPLIED ECONOMISTS, Princeton University Press (邦訳：福岡、須田訳、「経済学のためのゲーム理論入門」、創文社)
Wooldridge, J.M., INTRODUCTORY ECONOMETRICS: A MODERN APPROACH, Thomson, South-Western (邦訳なし)

参考文献
Reference Book(s)

小西秀樹「公共選択の経済分析」東京大学出版会
松浦寿幸著「Stataによるデータ分析入門」東京書籍

評価方法
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	%	
平常点評価 Class Participation	100 %	
その他 Other	%	

備考
Note

演習募集に関する詳細な情報については、小西研究室のホームページで「演習募集」のコーナーを参照してください。

関連URL
URLs for References

<http://www.f.waseda.jp/h.konishi/index.html>

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
304	国際政治経済学演習 (斎藤純一)	通年	3年以上：4単位	斎藤 純一 政政・経演・国演

副題
Subtitle

近現代の政治理論

授業概要
Course Description

このゼミでは、自由、公共性、社会保障、社会統合、デモクラシーなど近現代の規範的な政治理論の主要テーマを取り上げる。今年度は、とくにハーバーマスおよびロールズ思想に焦点を当てる予定である。

現代の政治社会を適切に理解するための言葉(概念)を獲得するとともに、これまで自明とされてきた規範や考え方を問い直す視点を身につけることがこのゼミの目標である。

授業の到達目標
Objectives

政治理論の基本的なテキストを正確に理解し、議論を整理して考え、理由(論拠)を明確に挙げながら自分の考えを伝える力を獲得することがこのゼミの到達目標である。とくに、論文指導等、文章力を伸ばすための機会をできるだけ設けたいと考えている。

授業計画
Course Schedule

第1回：ハーバーマスについてのイントロダクション

第2回 - 第11回：ハーバーマスの思想

第12回：検討と評価(レポートをめぐる議論)

第13回 - 第14回：検討と評価

第15回：まとめ

第16回：ロールズについてのイントロダクション

第17回 - 第26回：ロールズ思想

第27回：検討と評価(レポートをめぐる議論)

第28回 - 第29回：検討と評価

第30回：まとめ

教科書
Textbook(s)

ハーバーマス 『事実性と妥当』およびロールズ 『正義論』

ほか受講生と相談の上で決める。

参考文献
Reference Book(s)

斎藤純一 『公共性』(岩波書店、2000年)。

斎藤純一 『自由』(岩波書店、2005年)。

斎藤純一 『政治と複数性 - 民主的な公共性にむけて』(岩波書店、2008年)。

評価方法
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	研究内容、議論の構成力等
平常点評価 Class Participation	70 %	レジュメ、発表、議論への参加等
その他 Other	%	

備考
Note

関連URL
URLs for References

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
305	国際政治経済学演習 (貞廣彰)	通年	3年以上：4単位	貞廣 彰 政政・経演・国演

副題
Subtitle 日本経済の現状分析と展望

授業概要
Course Description

本演習は刻々と変化する日本経済と世界経済の動向を経済学の視点でもって解剖する素養を学ぶことを狙いとする。いうまでもなく、現実の経済はさまざまな要因（財政・金融面、雇用・労働面、人口動態や企業行動など）が複雑に絡み合っていて循環と成長をしている。また、IT化、グローバル化、高齢化という世界の潮流変化の中で日本経済はさらなる変革をせまられている。

こうした複雑にからみあう現実の経済現象を理解して将来を展望するために、本演習では、（１）現実のデータをグラフに描いて冷静に眺めるという経済分析の基本姿勢を貫きながら、初歩的な経済理論と客観的なデータに基づいて、議論を重ねることで、経済を見る眼を培っていく、（２）今後の財政改革、年金改革、規制改革などの重要なテーマについて論点整理と各自の意見を磨く、と同時に、（３）米国、欧州、アジア（特に中国）経済など日本経済へ影響を及ぼす国際的な事柄についても理解を深めていく。

教材としては「経済財政白書」、IMFなどの国際機関の文献を使用する。

授業の到達目標
Objectives 経済の専門誌をある程度読めるようになることを目指す。

授業計画
Course Schedule 第1回 - 第15回：春学期はWorld Economic Outlook を読む。
第16回 - 第30回：秋学期はターム・ペーパーの発表を行う。

教科書
Textbook(s) IMF, World Economic Outlook (最新版)

参考文献
Reference Book(s)

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	%	
平常点評価 Class Participation	100 %	発表の中身。
その他 Other	%	

備考
Note タームペーパー（３年次）と卒業論文（４年次）は英語で書くことを必須とする。

関連URL
URLs for References

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
306	国際政治経済学演習 (清水和巳)	通年	3年以上：4単位	清水 和巳 政政・経演・国演

副題
Subtitle

人間と社会の政治経済学

授業概要
Course Description

「不思議なものは多い。しかし人間ほど不思議なものはない」(ソフォクレス『アンチゴーン』)

古代から現代に至るまで、人間はあらゆる学問分野で最大の謎であり続けてきた。社会科学はとりわけ人間と社会の関係に興味をもってきた。スミスは人間が利己的に行動しているにもかかわらず社会が破綻しないことを、ヴェーバーは資本主義という特殊な社会経済制度を支える人間が西欧という地域で生じたことを、マルクスは人間が作り出した社会が逆に人間を疎外していくことを、彼らはそれぞれの謎に彼らなりの解答を用意した。とはいえ、こういう偉大な先達ととりくんだ大問題だけが謎なのではない。たとえば、海外旅行をしたときにあるレストランで食事をしたとしよう。「ここで食事することはおそらくもう二度とない」とわかっていても、われわれはチップを払う。実はこれも(ある観点からすると)人間と社会に関する謎なのだ。

本演習の目的は、人間の意思決定・行動、その結果として生じる社会制度に関する謎を自分でみつけ、そこに社会科学的に切り込む方法を学ぶことにある。その際、「自分」にとっては謎だが、他人にはなぜそれが解くべき謎なのかが理解できない、「自分」はその謎に答えたつもりだが他人は納得しない、こういう事態は避けたい。したがって、演習参加者は少なくとも以下の3点に関して自問自答してほしい。

- なぜ(どのような立場からすると)その問題を「謎」ととらえることができるのか?
- もし、その問題が本当に「謎」であるなら、それにどのように応答することが社会科学と言えるのか?
- そもそも、社会科学的に思考するとはどういうことなのか?

授業の到達目標
Objectives

演習参加者は、自分の問題設定、問題の検討方法を他の参加者に理解させ、納得させために必要な技術や方法を身につける。

授業計画
Course Schedule

第1回：オリエンテーション
第2回：「読む技術」1
第3回：「読む技術」2
第4回：「書く技術」1
第5回：「書く技術」2
第6回：基礎的知識の講義1
第7回：基礎的知識の講義2
第8回：基礎的知識の講義3
第9-15回：各人の興味対象に応じた文献購読・発表
16回目-30回目は夏合宿での卒論計画発表をふまえて、各人に報告を割り当てる。

教科書
Textbook(s)

特になし。事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。

参考文献
Reference Book(s)

第一回目のゼミナールにおいて参考文献リストを配布するが、制度の経済学、ゲーム理論、科学方法論などの分野を重点的に読んでいく。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	
平常点評価 Class Participation	50 %	
その他 Other	%	

備考
Note

学生に対する要望
(1) 質問がある場合、次のアドレス宛てにメールで問い合わせること：skazumi1961@gmail.com。
(2) 担当教員の「比較経済制度分析」を受講済みであること、加えて、ミクロ経済学、ゲーム理論、統計学、科学哲学に関する基本的な知識があることが望ましい。まだ「比較経済制度分析」を受講していない場合は、来年度受講することを強く勧める。

関連URL
URLs for References

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
307	国際政治経済学演習 (須賀晃一)	通年	3年以上：4単位	須賀 晃一 政政・経演・国演

副題
Subtitle

現代社会の政治経済分析 - 公共性の実現に向けて

授業概要
Course Description

このゼミでは、公共性の政治経済学を求めて、広く現代社会が抱えるさまざまな問題を政治経済学・公共経済学の視点で考えてみたいと思います。現代社会の問題の多くは特定の観点から解決できるものではなく、複眼的視点に立って公共性の実現を目標に解決のルートを探るべきものであると考えられます。これまでに繰り返し指摘されてきた効率と公平の両立を図ることは重要な観点であり、皆さんに学んでいただければならない最小限の視点です。さらに、効率と公平を政治経済システム全体の中で、さらには時間的、空間的パースペクティブの中で考察することも重要な課題であるので、これを新たな課題としたいと思います。これまでに取り上げてきたテーマに照らして考えると、具体的なテーマは以下のようになるでしょう。

1. 地球環境問題と世代間倫理
2. グローバリゼーションとグローバル・ジャスティス
3. 少子高齢化と社会保障
4. 現代の貧困と労働問題
5. 資源と食料の政治経済分析
6. 教育の政治経済分析
7. 医療の政治経済分析

これらの問題に対して、明確な価値基準を設けて、公的制度を作るとか、当事者間の合意によりルールを設定することで解決するといった方向を探るのが、このゼミで用いる接近方法の特徴です。

ゼミでは、まず現代社会の問題群の中から自分なりのテーマを決めます。そして、それに応じて2種類の課題図書を指定します。1つは各自のテーマに関する中級のテキスト、もう1つは書評用の図書(新書程度)です。まず、書評を作成し、発表してもらいます。書評の作成およびテキストの要約は春休みの宿題です。次に、グループ研究を行います。各人の選んだテーマに従ってグループを作り、グループごとにサブテーマを決めて資料収集し議論・研究し、発表原稿を作成します。指定した中級テキストが資料収集の際に指針を与えてくれるでしょう。発表グループが進行役となり、ゼミでの議論を進めてもらいます。グループごとの共同研究の成果は共同論文にまとめます。

授業の到達目標
Objectives

共同論文の作成。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：自己紹介と今後の進め方
- 第2回：パワーポイントの使い方
- 第3回：書評の発表(1)
- 第4回：書評の発表(2)
- 第5回：書評の発表(3)
- 第6回：書評の発表(4)
- 第7回：書評の発表(5)
- 第8回：各班によるテキスト発表(1)
- 第9回：各班によるテキスト発表(2)
- 第10回：各班によるテキスト発表(3)
- 第11回：各班によるテキスト発表(4)
- 第12回：班研究のテーマ決定
- 第13回：各班での資料分析
- 第14回：班発表(1)、(2)
- 第15回：班発表(3)、(4)
- 第16回：夏合宿の反省と今後の課題の検討
- 第17回：班ごとの論文作成 - 中間発表に向けて - (1)
- 第18回：班ごとの論文作成 - 中間発表に向けて - (2)
- 第19回：各班の中間発表(1)
- 第20回：各班の中間発表(2)
- 第21回：オープンゼミ(1)
- 第22回：オープンゼミ(2)

- 第23回：班ごとの論文作成 - 最終版に向けて - (1)
 第24回：班ごとの論文作成 - 最終版に向けて - (2)
 第25回：各班の発表練習 - ISFJ政策フォーラムに向けて - (1)
 第26回：各班の発表練習 - ISFJ政策フォーラムに向けて - (2)
 第27回：班ごとの論文作成 - 政治経済学会論文コンクールに向けて - (1)
 第28回：班ごとの論文作成 - 政治経済学会論文コンクールに向けて - (2)
 第29回：4年生卒業論文へのコメント (1)
 第30回：4年生卒業論文へのコメント (2)

教科書
Textbook(s)

研究室のホームページを参照のこと。

参考文献
Reference Book(s)

研究室のホームページを参照のこと。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	60 %	
平常点評価 Class Participation	40 %	
その他 Other	%	

備考
Note

ゼミの最終目標を卒業論文の作成に置きます。
 ゼミは通常の一方的な講義と異なり、皆さんが主役です。主役たる皆さん一人一人が積極的に参加しなければゼミは崩壊します。自分なりのテーマを持って自分で研究する態度を養い、他の人とできるだけ議論して下さい。常に「根拠は何か」と問う姿勢を持つことが大切です。この作業が就職してから大いに役に立ちます。

関連URL
URLs for References

<http://www.f.waseda.jp/ksuga/>

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
308	国際政治経済学演習 (鈴木興太郎)	通年	3年以上：4単位	鈴木 興太郎 政政・経演・国演

副題
Subtitle

厚生経済学と社会的選択の理論

授業概要
Course Description

この演習では、厚生経済学と社会的選択の理論の基礎を学び、この理論に立脚して経済政策の批判的検討と建設的な立案に関するグループ研究と全体討議を行う予定である。議論の素材となる経済政策の具体例としては、福祉政策と競争政策を念頭においている。

授業の到達目標
Objectives

厚生経済学と社会的選択の理論の基礎を確実に体得すること。

授業計画
Course Schedule

第1回 - 第15回：『社会的選択の理論・序説』を輪読する。
第16回 - 第30回：学生の関心に応じて課題図書を指示して個別報告をさせ、全員で討議する。

教科書
Textbook(s)

鈴木興太郎『社会的選択の理論・序説』（2012年に東洋経済新報社より出版の予定）必要に応じてコピーを配布する。

参考文献
Reference Book(s)

鈴木興太郎（編）『世代間衡平性の論理と倫理』東洋経済新報社、2006年。
鈴木興太郎・長岡貞男・花崎正晴（編）『経済制度の設計と生成』東京大学出版会、2006年。
鈴木興太郎『厚生経済学の基礎 - 合理的選択と社会的評価 - 』岩波書店、2009年。

評価方法
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	%	
平常点評価 Class Participation	100 %	報告の準備と討議への貢献に応じて評価。
その他 Other	%	

備考
Note

学生に対する要望：参加する学生には、じっくりと腰を据えた読書と推論の姿勢を求めたい。また、ミクロ経済学の基礎を堅実に身に付けていること、公共哲学の基礎をしっかりと学習していることを期待している。

関連URL
URLs for References

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
309	国際政治経済学演習 (唐亮)	通年	3年以上：4単位	唐亮 政政・経演・国演

副題
Subtitle 現代中国の政治経済と外交戦略

授業概要
Course Description 戦後のアジア各国は歴史、文化および政治経済体制に関して多様性を持ちながら、国家統合、経済開発および民主化といった共通の課題を抱え、それぞれのアプローチで目標の実現に向けて努力してきた。この講義は近代化のプロセス、社会の変動および体制移行の径路をキーワードとし、比較分析の枠組みを用いながら、経済開発・社会発展・民主化のアジアモデルへの接近を試みたい。特に、改革開放路線によってダイナミックな発展を遂げている中国に焦点を当て、内政外交の重大課題と政府の発展戦略を分析し、市場経済化、グローバル化、情報化および意識の多様化といった流れを検証し、中国の「実像」と「将来像」に迫る。

授業の到達目標
Objectives 現代中国の内政外交に関する幅広い知識を有するほか、多文化の視点、複眼的な分析能力を身に付け、質の高い卒業論文を完成すること。

授業計画
Course Schedule 第1回：Introduction
第2回 - 第6回：現代中国の政治権力構造
第7回 - 第11回：現代中国政治の展開
第12回 - 第16回：近代化路線の「光」と「影」
第16回 - 第21回：経済発展と社会の変容
第22回 - 第24回：政治改革と民主化運動
第25回 - 第30回：中国の対外戦略：近隣外交、日中関係、アジア共同体

教科書
Textbook(s) 受講生と相談の上で決める。

参考文献
Reference Book(s) 岩崎育夫 『アジア政治を見る目』中公新書、2001年
武田康裕 『民主化の比較政治 - 東アジア諸国の体制変動過程』ミネルヴァ書房、2001年
毛里和子 『新版現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年
唐亮 『変貌する中国政治』東京大学出版会、2001年
毛里和子 『日中関係 - 戦後から新時代へ』岩波書店、2006年

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	30 %	
レポート Report(s)	30 %	
平常点評価 Class Participation	30 %	
その他 Other	10 %	

備考
Note アジア、特に現代中国に関心を持つ元気な学生の参加を大歓迎する。夏休みに自主参加の形で北京大学などとの共同セミナー、庶民生活の体験および社会観察などの自主参加プログラムを実施する。

関連URL
URLs for References

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
310	国際政治経済学演習 (遠矢浩規)	通年	3年以上：4単位	遠矢 浩規 政政・経演・国演

副題
Subtitle

知的財産権・ソフトパワー・産業競争力の国際政治経済学 - コンテンツとテクノロジーが変える国際関係 -

授業概要
Course Description

国際政治経済学は、戦争や外交交渉のような目に見えるイベントだけでなく、むしろそうした現象の背後にある国際システムの見えざる「構造」や「過程」を可視化しようとする学問です。一見、天下国家の問題とは関係なさそうな、企業や個人や集団による日々の経済的・社会的・文化的活動が、生産や消費や貿易やコミュニケーションを通じて、実は国際的な「格差」や「支配」に繋がるような国際システムの大きな「構造」なり「過程」を形成していると考えます。そのため分析の対象は、しばしば国家や軍事的行動ではなく、貿易、海外直接投資、国際金融、技術移転、エンターテインメント、サブカルチャーなどの領域に及びます。

当ゼミでは、そのような国際政治経済学のアプローチによって、特に「知的財産権」、「ソフトパワー」、「産業競争力」の関係性に注目しながら、「テクノロジーやコンテンツ」といった『無体物』が市場価値の中心になるにつれ、国家はどこに向かうのか、国際関係はどのように変容していくのか」を考えます。

授業は、関連する文献の輪読、チームに分れてのプレゼン・コンペ、論文作成指導の形で行われます。年度末に3年生は数ページのミニ論文を、4年生は卒業論文を制作・提出することが求められます。ミニ論文及び卒論のテーマは、国際政治経済学的なアプローチであれば、ゼミのテーマと異なる分野（例えば国際金融、環境政策、南北問題、地域統合、安全保障など）でも構いません。社会科学的方法（「仮説」を立てて「検証」する、「理論」を使う）を重視します。

（注記：知的財産権を学ぶのが目的ではなく、知的財産権やソフトパワーの議論を通じて国際政治経済学の理論や考え方を修得するゼミなので、知的財産権そのものへ深い問題意識や基礎知識は前提としていません。）

授業の到達目標
Objectives

(1) 国際関係を政治・経済・文化の相互作用に焦点を当てて理論的に分析する能力の獲得。

(2) 国際関係を、「特定の事件や現象」（イベント）からではなく、そうした現象の背後に存在する目には見えない「国際システムの構造や過程」から理解するセンスの獲得。

授業計画
Course Schedule

第1回：オリエンテーション。

第2回 - 第15回：文献の輪読、チーム対抗プレゼン・コンペ、論文作成指導。

夏合宿（9月）：プレゼン・コンペ（3年）、卒論計画の発表（4年）。

第16回：秋学期オリエンテーション。

第17回 - 第30回：文献の輪読、チーム対抗プレゼン・コンペ、個人テーマによる発表、論文作成指導。

教科書
Textbook(s)

（参考）2011年度ゼミの輪読文献（2012年度も使用する可能性があります）

小泉直樹『知的財産法入門』（岩波書店、2010年）

野口祐子『デジタル時代の著作権』（筑摩書房、2010年）

遠矢浩規「通商国家と知的財産権」（『知的財産法政策学研究』第34号所収、2011年）

ジョセフ・S・ナイ『ソフト・パワー』（日本経済新聞社、2004年）

岩淵功一『文化の対話力』（日本経済新聞出版社、2007年）

河島伸子『コンテンツ産業論』（ミネルヴァ書房、2009年）

リチャード・ローズクランズ『バーチャル国家の時代』（日本経済新聞社、2000年）

クリス・アンダーソン『フリー』（NHK出版、2009年）

タイラー・コーエン『創造的破壊 グローバル文化経済学とコンテンツ産業』（作品社、2,400円）

参考文献
Reference Book(s)

評価方法 Evaluation	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	論理性、独創性。(レポート=プレゼンのレジюмеや論文)
平常点評価 Class Participation	50 %	意欲、議論への貢献。
その他 Other	%	

備 考 Note	<p>(1) ゼミは3年、4年合同で行います。</p> <p>(2) 正規のゼミとは別に、週に1回、ゼミ生が主体的に行う「サブゼミ」があります(全員参加)。サブゼミでは、正規ゼミの予習・復習、関連するテーマや文献の勉強会、プレゼン・コンペに向けてのグループ・ワーク、各種行事の準備作業などを行います。主に4年生が3年生を指導する形で行われます。</p> <p>(3) 夏季休暇中に2泊3日の合宿を行います。</p>
-------------	---

関連URL URLs for References	<p>ゼミ公式HP http://tohya.buzama.com/ (間もなくリニューアルします。随時確認してみてください。)</p> <p>ブログ http://blog.goo.ne.jp/softpower ゼミの様子・雰囲気がよくわかります。</p> <p>ツイッター http://twitter.com/#!/DrTohya</p> <p>フォトアルバム(1) http://picasaweb.google.com/112185018444596926613</p> <p>フォトアルバム(2) https://picasaweb.google.com/108147728885560821609</p> <p>(ブログ、ツイッター、フォトアルバムはゼミ公式HPからも入れます。)</p>
------------------------------	--

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
311	国際政治経済学演習 (内藤巧)	通年	3年以上：4単位	内藤 巧 政政・経演・国演

副題
Subtitle

国際貿易理論

授業概要
Course Description

国際貿易理論の英語論文6本以上を精読する。選ばれている6本の論文は、いずれも国際貿易理論の各分野における代表的な論文であり、世界中の国際貿易の研究者が理解しているべきものである。理論の論文を読むためには、数式を全て自力で導出し、かつその経済学的意味を直観的に説明できなければならない。また、分からない概念が出てきた場合、自分で他の論文や本を調べて解決しなければならない。報告者は事前に割り当てず、参加者の中からランダムに指名するので、全ての参加者は常に報告の準備をしておかなければならない。

授業の到達目標
Objectives

- ・経済学の学術論文を読めるようになる。
- ・経済学を研究するとはどういうことかを理解できる。

授業計画
Course Schedule

第1回 - 第5回 : Dornbusch et al. (1977, AER)
 第6回 - 第10回 : Jones (1965, JPE)
 第11回 - 第15回 : Krugman (1980, AER)
 第16回 - 第20回 : Brander and Spencer (1985, JIE)
 第21回 - 第25回 : Abe (1992, IER)
 第26回 - 第30回 : Acemoglu and Ventura (2002, QJE)
 時間が余れば、以下の論文に進む：
 ・Melitz (2003, EMA)
 ・Eaton and Kortum (2002, EMA)

教科書
Textbook(s)

なし。

参考文献
Reference Book(s)

- [1] Abe, K., 1992. Tariff reform in a small open economy with public production. *International Economic Review* 33, 209-222.
 [2] Acemoglu, D., Ventura, J., 2002. The world income distribution. *Quarterly Journal of Economics* 117, 659-694.
 [3] Brander, J. A., Spencer, B. J., 1985. Export subsidies and international market share rivalry. *Journal of International Economics* 18, 83-100.
 [4] Dornbusch, R., Fischer, S., Samuelson, P. A., 1977. Comparative advantage, trade, and payments in a Ricardian model with a continuum of goods. *American Economic Review* 67, 823-839.
 [5] Eaton, J., Kortum, S., 2002. Technology, geography, and trade. *Econometrica* 70, 1741-1779.
 [6] Jones, R. W., 1965. The structure of simple general equilibrium models. *Journal of Political Economy* 73, 557-572.
 [7] Krugman, P., 1980. Scale economies, product differentiation, and the pattern of trade. *American Economic Review* 70, 950-959.
 [8] Melitz, M. J., 2003. The impact of trade on intra-industry reallocations and aggregate industry productivity. *Econometrica* 71, 1695-1725.
 また、演習開始時点までに以下の教科書程度の知識を身につけておくべきである：
 中西訓嗣、広瀬憲三、井川一宏（編）、2003. 『国際経済理論』。有斐閣、東京。

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	%	
平常点評価 Class Participation	100 %	・ 報告及び議論のパフォーマンスを総合的に評価する。 ・ 欠席 3 回以上で不合格。
その他 Other	%	

備 考
Note

- ・ 論文は大学のネットワーク経由で入手すること。
- ・ 毎回の準備に相当の時間と努力が必要なことを覚悟すること。
- ・ 準備は自分で行き、担当教員に頼らないこと。
- ・ 本気で経済学を研究したい学生しか本演習を志望してはならない。

関連URL
URLs for References

<http://www.f.waseda.jp/tnaito>

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
312	国際政治経済学演習 (深川由起子)	通年	3年以上：4単位	深川 由起子 政政・経演・国演

副題
Subtitle

現代東アジア経済研究：グローバリゼーションと新興経済の諸問題

授業概要
Course Description

東アジア（NIEs、ASEAN、中国及びインド）経済は各国の基礎条件の多様性が強調されがちだが、経済発展の歴史が積み重なるにつれ、グローバリゼーションへの積極的な参加、「圧縮された成長」がもたらす不均衡など、多くの共通点がみられる。機会でもあり、負荷でもあるグローバリゼーションの影響は先進国でも似ているが、経済規模が小さく、政治社会構造が未成熟な新興国への影響は一層、大きい。本演習は考察対象を東アジアに限定し、グローバリゼーションへの対応という点からその経済発展メカニズムを捉えて議論を進める。東アジアは言うまでもなく日本とますます深い経済相互依存関係にあり、同時代・近隣経済の生きた「現実」を理論との接点において掘り下げることを楽しみながら勉強を進めることにしたい。

授業の到達目標
Objectives

前半はアジア経済の主要な構造問題、論点について基礎的な理解を深め、与えられた問いに沿って自分の論理を整理して述べられるようになること。問題意識を持って現代経済の諸問題を考えられるようになること。

後半は各国の事例を取り上げ、自分の仮説設定とその検証ができるようになること。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：東アジアの経済パフォーマンス
- 第2回：輸入代替工業化と輸出主導工業化
- 第3回：産業政策と技術移転
- 第4回：直接投資
- 第5回：国際分業と産業集積
- 第6回：金融抑圧と金融抑制
- 第7回：市場拡張型政府
- 第8回：金融自由化と資本の自由化
- 第9回：通貨危機
- 第10回：ファミリー・ビジネスと経済発展
- 第11回：構造調整（企業・金融部門）
- 第12回：構造調整（労働・社会部門）
- 第13回：体制移行経済
- 第14回：経済統合と開発
- 第15回：東アジアの地域協力
- 第16回：現地演習（1）*（備考参照）
- 第17回：韓国：キャッチアップ工業化の原型
- 第18回：台湾：中小企業と産業集積
- 第19回：香港／シンガポール：開放小経済のハブ機能
- 第20回：タイ：直接投資と技術移転の課題
- 第21回：フィリピン：経済開発と民主化
- 第22回：マレーシア：経済発展と社会的求心性の維持
- 第23回：インドネシア：権威主義体制と経済ガバナンス
- 第24回：中国（1）：漸進主義的改革
- 第25回：中国（2）：対外開放とグローバリゼーション
- 第26回：ベトナム：対外開放と後発の利益
- 第27回：インド：グローバリゼーションと産業構造転換
- 第28回：ASEAN：東アジア型経済統合アプローチ
- 第29回：現地演習（2）**（備考参照）
- 第30回：まとめと卒業論文研究計画検討

教科書
Textbook(s)

授業にて指示。

参考文献
Reference Book(s)

基本的には演習開始時のシラバス及びreading packetによるが、情報収集能力を高めるために主要Journalや文献をHPから探してダウンロードする作業を課す。

評価方法
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	60 %	毎週課されるレポートの内容評価(A+からDまで)。
平常点評価 Class Participation	30 %	質問の適切さ、議論の構成、討議のリード力など。
その他 Other	10 %	現地演習や外部講師授業の運営、ゼミとりまとめへの貢献。

備考
Note

学生に対する要望：

国際経済学及び経済開発関連科目を履修済みもしくは履修のこと。現地演習を実施するので、現地を旅する体力と好奇心を持ち、分量の多い英語文献を読み、英語での討論ができること。TOEIC800以上か、留学・外国滞在経験者を歓迎、同時に社会科学のツールを使うことに興味があること。留学生は早い速度の日本語討論が併せて可能なこと。演習では問題意識を持って積極的に議論を展開できること。

現地演習(1)*：夏休み中に東アジアの代表的大学を訪問し、共通テーマについて発表、討論を行う(10年度はインドネシア、11年度は中国)。

現地演習(2)**：ソウルで実施(ソウル大学、延世大学、高麗大学とのインターゼミに東大、一橋大、慶応大と参加)。

関連URL
URLs for References

<http://fukagawaseminar.web.fc2.com/>

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
313	国際政治経済学演習 (最上敏樹)	通年	3年以上：4単位	最上 敏樹 政政・経演・国演

副 題
Subtitle

国際立憲主義の諸問題

授業概要
Course Description

国際法制度（国際法および国際機構）が国際秩序の形成にどのような役割を果たしているかについての基本文献を読み、教員との質疑応答を行い、参加者で討議する。それを踏まえて後半では、参加学生による研究報告もしてもらう。

文献としては、まずは担当教員のこれまでの研究成果を理解してもらうことが必要なので、教員自身の著書からいくつかを選ぶ。それを踏まえ、また参加者の学力レベルや意欲を見た上で、英語文献の輪読・討議なども加える。

国際法および国際機構論のいずれか、あるいはその両方に興味があり、かつそれらを総合した学習をしたいという学生諸君の参加を歓迎します。

授業の
到達目標
Objectives

国際法および国際機構論の中の、国際秩序に関わる現代的諸問題を学び、なぜ国際立憲主義を論ずべきなのかについての理解を深める。

まずは基本的な知識の習得および、この分野の方法論の学習が目的であり、それにそった文献の精読を行う。あわせて、それらをもとにした討議を行い、いかにして自分の議論を組み立てるかの訓練も行う。

現代的なテーマをもとに自由闊達な議論をすることも、この授業の目標である。

授業計画
Course Schedule

第1回 - 第6回：「人道的介入」（最上敏樹）を読み、討議する。

第7回 - 第12回：「国連とアメリカ」（最上敏樹）を読み、討議する。

第13回 - 第22回：「国際立憲主義の時代」（最上敏樹）を読み、討議する。

第23回 - 第30回：英語文献講読（候補：Barnett & Finnemore, Rules for the World, 2004）および受講者による報告

教科書
Textbook(s)

（上記「授業計画」を参照のこと）

参考文献
Reference Book(s)

（同上。必要に応じて追加します）

評価方法
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	
平常点評価 Class Participation	50 %	
その他 Other	%	

備 考
Note

上記「成績評価方法」はいちおうの目安であり、最終的には受講者と相談して決定し、通知します。

関連URL
URLs for References

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
314	国際政治経済学演習 (山崎眞次)	通年	3年以上：4単位	山崎 眞次 政政・経演・国演

副題
Subtitle

マイノリティ・ナショナリズムの研究

授業概要
Course Description

冷戦終結後の紛争は、国家間の争いより国家内の民族対立から多くが発生している。民族対立の大半は主権国家に対する国内少数派（マイノリティ）の異議申し立てである。紛争の原因は、宗教・習慣・言語等の違いから惹起される文化的摩擦、自治権・自決権の公平性や拡大という政治的要求、財源の公平な分配や地下資源の開発権等の経済的要求など、その紛争が起こる国や地域によって多岐に渡る。

なぜエスニック・マイノリティは主権国家に異議を唱えるのか、彼らの主張に正当性はあるのか、主権国家の対応は適切であるのかを検証し、問題の本質を理解した上で、紛争解決策を模索するのが、本演習の目的である。担当者は長年ラテンアメリカの地域研究に従事してきたので、その経験を演習では生かすつもりであるが、研究対象をラテンアメリカに限定するものではない。

キーワードとしては、人権、マイノリティ、民族紛争、多文化主義、ナショナリズム、リベラリズム、コミュニタリアニズム、先住民、ジェンダーなどがあげられる。

授業の
到達目標
Objectives

本セミナー参加者が、セミナーでの輪読、発表、ディベートを通じて、日常的に差別、侵害、暴力に晒されている民族的・社会的マイノリティの現状を認識し、そのような弱者の痛みを和らげ、問題を共有し、政治的、経済的、司法的、社会的解決策を提言できる能力を養うことにある。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：提出された課題の検討
- 第3回：ナショナリズムの定義1
- 第4回：ナショナリズムの定義2
- 第5回：ナショナリズムの定義3
- 第6回：ナショナリズムの定義4
- 第7回：ナショナリズムの定義5
- 第8回：エスノナショナリズム1
- 第9回：エスノナショナリズム2
- 第10回：エスノナショナリズム3
- 第11回：エスノナショナリズム4
- 第12回：エスノナショナリズム5
- 第13回：エスノナショナリズム6
- 第14回：エスノナショナリズム7
- 第15回：春学期理解度の確認
- 第16回：リベラリズム1
- 第17回：リベラリズム2
- 第18回：コミュニタリアニズム1
- 第19回：コミュニタリアニズム2
- 第20回：多文化主義1
- 第21回：多文化主義2
- 第22回：多文化主義3
- 第23回：ポストコロニアル研究1
- 第24回：ポストコロニアル研究2
- 第25回：ポストコロニアル研究3
- 第26回：ポストコロニアル研究4
- 第27回：ジェンダー1
- 第28回：ジェンダー2
- 第29回：ジェンダー3
- 第30回：理解度の確認

教科書
Textbook(s)

加藤普章・吉川 元編、「マイノリティの国際政治学」、有信堂、2000年

参考文献

Reference Book(s)

3年生の基礎文献

B．アンダーソン「想像の共同体」、A．スミス「ネイションとエスニシティ」、A．ゲルナー「民族とナショナリズム」、C．テイラー「マルチカルチュラリズム」、W．キムリッカ「多文化時代の市民権」、J．バージャー「世界の先住民族」、山崎眞次「メキシコ民族の誇りと闘い」、E．サイド「オリエンタリズム」、江原由美子、山田昌弘「ジェンダーの社会学入門」、目黒依子「ジェンダー・システムと少子化」

評価方法
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	学年末に提出する研究計画書。
平常点評価 Class Participation	60 %	2回の発表とディベートへの参加。
その他 Other	10 %	ゼミ合宿への参加。

備考
Note

学生に対する要望：マイノリティ問題に強い関心をもつ学生をもとむ。

関連URL

URLs for References

<http://members3.jcom.home.ne.jp/yamasin/>
<http://www.waseda.jp/sem-minoritygis>

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
315	国際政治経済学演習 (若林正文)	通年	3年以上：4単位	若林 正文 政政・経演・国演

副題
Subtitle

台湾地域研究から近現代東アジアの問題群にアプローチする

授業概要
Course Description

台湾地域研究関連文献の輪読・討論を出発点として、東アジアにおいて個性的な歴史を経験している台湾という地域とその複雑な対外関連性（日中台、米中台の三重のトライアングルと日米中関係）とを手がかりに東アジア地域への理解を深め、この地域の近現代が抱えている問題群・課題について考えていく。想定される問題群には、（１）広域秩序主体（「帝国」）の興亡、（２）戦争と平和、（３）グローバリゼーション、（４）地球政治空間の国民国家化、（５）不均等・跛行的に展開する近代化、などがある。台湾から入り、東アジアに自分の「地域」と「問題」を見つけ、それをゼミの中で表現し、最終的なゼミ論に繋げていく。

授業の到達目標
Objectives

台湾研究関連文献の輪読などで身につけた知見から出発して、問題発見、調査、口頭発表、学術論文の執筆の一連の知的スキルと知的態度を見つける。この点から、予備論文（三年次）、ゼミ卒業論文（四年次）作成・提出を必要とする。

授業計画
Course Schedule

第1回 - 第2回：イントロダクション：学術論文とはどういうものか、どのように書くのか？
 第3回 - 第5回：台湾を知ろう：ファーストステップ
 第6回 - 第8回：台湾を知ろう：セカンドステップ
 第9回 - 第11回：「広域秩序主題の興亡」問題群の探求
 第12回 - 第14回：「戦争と平和」問題群の探求
 第15回：総合討論
 第16回 - 第19回：「グローバリゼーション」問題群の探求
 第20回 - 第23回：「地球政治空間の国民国家化」問題群の探求
 第24回 - 第27回：「不均等・跛行的に展開する近代化」問題群の探求
 第28回 - 第29回：参加者研究報告
 第30回：総合討論

教科書
Textbook(s)

まず若林正文の『台湾 変容し躊躇するアイデンティティ』（中公新書）、周婉窈『図説台湾の歴史』（平凡社）を手がかりに同『台湾の政治 中華民国台湾化の戦後史』（東京大学出版会）を読破する。その後は、ステップ毎に指定する。またこういうものを輪読したいという参加者の提案を歓迎する。

参考文献
Reference Book(s)

評価方法
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	30 %	
平常点評価 Class Participation	70 %	
その他 Other	%	

備 考
Note

これまでの基礎知識は問わないが、これからの学習に対する強い意欲と好奇心ならびに知的柔軟性と何冊も本を読み抜く持久力を求める。無断欠席3回以上で、評価の対象から外す。参加者の意欲次第であるが、適切なタイミングで台湾へのゼミ旅行の実施も考えている。必須条件はしないが、中国語閱讀能力のある諸君を歓迎する。

関連URL
URLs for References